

## 町長室から

10月

22日投票の衆議院選挙につきましては、期日前投票から始まり、当日の選挙管理と町民の皆さんに立会人のお手伝いをいただき、無事終了することが出来ましたことに感謝申し上げます。

今年も浦幌中学校の3年生から浦幌町の活性化案をいただきました。

①浦幌高校校舎を利用した宿泊施設を作り、運営費はクラウドファンディング(ふるさと納税)で賄うという『モコ・オーラポロ』  
②浦幌高校をリニューアルしてインターネット環境の整備、体育館を遊び場にする、料理の提供、子育て相談室、商品コーナー、勉強ルームなどを展開して費用は食堂で賄う『浦高オールマイティ』  
③春にみのり祭りと世代が違う人たちのフェスティバルを2日間開催する(音楽系イベント・特産品の飲食店の出店)『うらフェス』  
④1年のうちに春夏秋冬の4種類のバスでプチツアーを行なう『エンジヨイ・オールシーズン』の4つの提案です。

案を発表するまでには総合学習の時間を利用して町への理解

を高め、修学旅行先ではアンケート調査を行うなど、発表に至るプロセスを重視して研修を深めながら活性化案を熟慮していただきました。

つまり案は単なる思い付きではなく、発表者の願いとともに町を何とかしたいし、しなくてはという思いが伝わる内容となっています。

提案していただいた活性化案はこれから子どもの想い実現ワークシヨップでいろいろ工夫しながら具体化を図っていきますが、提案していただいたことに感謝と敬意を申し上げます。

徳島県の神山町と美波町へ視察に行ってきました。

国の中央官庁を地方に移転させる計画で消費者庁の移転先に1番先に候補地として名前が挙がったのが神山町でした。(実際に徳島県庁内に消費者庁の一部が移転している)

神山町は人口がほぼ浦幌町と同じくらいなのですが、平家の落ち武者の隠れ集落といわれるだけに鮎食(あくい)川沿いの道路は狭くて両側の後背地には急な山が迫り、農家が点在しているだけで浦幌町

のような街並みがなく山間の集落としか感じられないところですが、そのような町に築80年から150年の古民家を改修してIT企業のサテライトオフィスが最近進出しています。また芸術家や神山塾には全国から若者達が集まり、塾生達は次々と町内で創業して消費者を呼び寄せている町です。

美波町も集落に同じようにサテライトオフィスが進出しています。

浦幌町では神山町で若者の人材育成事業を積極的に展開している人たちとの交流を最近盛んに行っていますが、なぜこの小さな何もない町にこんなに異業種の人達が集まるのか不思議な気がしていましたが「百聞は一見に如かず」で行ってきました。

進出している企業の皆さんが異口同音に話してくれたのは、地域との交わりを大事にしたいという思いでした。

四国は昔から八十八箇所のお遍路さんを迎えるおもてなしの心が根付いているところであり、初めて会う人たちにも気兼ねなく付き合う文化があるようです

が、それが人を引き寄せる源にもなっているような気がしました。浦幌町においても、町民の皆さんの温かい気持ちはそれに劣るものではなく、神山町で先進的活動をしておられる方が浦幌町との交流を続けていてくれますことから、神山バージョンを浦幌町において実現できないかを模索しているつもりです。

浦幌町の初代アンバサダー(応援大使)を北村貢さんに委嘱しました。

北村さんは浦幌町出身ですが、日本で2番目となるインターネット専門マーケティング会社を立ち上げ、現在は株式会社グロッシの代表取締役として帯広、東京を舞台に活躍されておられますが、道内はもとより全国的にも精力的な講演活動もこなされておられます。

浦幌町を愛してやまない方で、アンバサダーとして、全国に浦幌町のすばらしさを発信していただくことをお願いいたしました。

浦幌町長 水澤一廣